

# 令和2年度 学校関係者評価

中津市立如水小学校

## 1 学校の教育目標

豊かな心と基礎基本を身につけ、多様性を尊重し、自ら学び切り拓く子どもの育成

## 2 育成を目指す資質・能力

聴く力を育み、根拠をもって自分の考えを表現できる子どもの育成

## 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

### 評定判断基準

- A …達成率90～100%
- B …達成率70～ 89%
- C …達成率60～ 69%
- D …達成率60%未満

生きて働く知識・技能の育成  
思考力・判断力・表現力等の涵養  
学びに向かう力、人間性の涵養  
働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
聴く力等、基本を確実に身につける	①「授業で友達の話が聴ける」と答えるA層児童の割合を5%増やす (6月62%→ 71%) ②中津市学力調査(国語・算数)で、今年度の本校平均と市平均との差が昨年度の差より上回る ③単元テストの70点未満(C層)の割合を2割以下にする。 <small>算数・全学年達成率 国語・全学年達成率</small>	学校	①聴く力の育成 ②如水STを意識した授業の実施	・授業者が、「共感的な聴き方」の例を可視化し、ペア・グループ活動の際に児童に意識して使わせる。 ・授業者が、課題提示後、見通しを持たせる場を設定しキーワードを活用して考えを書かせる。	A	・視点を持たせることで、「話を聴こう」という意識は大いに高まっている。 ・共感的に聴く視点は、授業への姿勢だけでなく、学びを通じた豊かな心の育成につながるので継続してほしい。 ・指導者には「聴く」ための「待つ」意識も大切にしてほしい。
		家庭	○家庭学習の徹底 ○生活習慣の確立	家庭と連携し「子どもが毎日宿題をしているか」声かけ運動をする。	A	・アンケートの結果で、90%がよくできた、できたと成果が出ているが、一方で忘れる児童へのサポートも引き続き継続する。
		地域	○学習支援	地域の方と連携し、水曜日放課後教室、土曜日教室、学習支援活動を実施する。	B	・学校での感染症対策を講じつつ、放課後学習教室は再開し、補充学習ができた。今後も状況を確認して実施できる活動を進めていく。
多様性を尊重し自分の考えを表現できる	①「授業で自分の考えが言える」と答えるA層児童の割合を5%増やす(6月58%→12月67%) ②「授業で振り返りができている」と答えるA層児童の割合を5%増やす (6月70%→12月73%)	学校	①表現力向上を中心に据えた授業改善 ②振り返りの充実	・授業者が、毎時間、ペア・グループ学習の場を複数回設定し、多様なグループ編成を行うことで、自分の考えを表現する場を増やす。 ・授業者が、毎時間、児童に「じよすい」を使った振り返り、単元末には視点を与えた記述の振り返りを行わせる。	A	・ペア・グループ学習で全員が発言できている。 ・キーワードをいつでも使えるようにしており、学習で大切な言葉を使って話し合える場面が多くなっている。 ・「振り返り」場面でもキーワードを使い表現する有効な方法である。
		家庭	○家庭・地域でのありがとう運動の推進	家庭と連携し、子どもに1日1回「ありがとう」を言う活動に取り組む。	B	・アンケートで、86%がよくできた・できたととなっている。今後も地域の中での声かけを続け日常化をすすめていくようにしたい。
		地域	○あいさつの推進	地域と連携し、あいさつ運動に取り組む。	B	
目標を持ち挑戦する	①生活プロジェクトに「進んで取り組んだ」と答えるA層児童の割合を5%増やす(6月52%→12月75%) 新指標 ②「課題を見つけ目標を持って取り組むことができた」と答える児童のA層の割合を5%増やす。	学校	①生活プロジェクトの実施 ②課題を見つける力の育成	・担任が、第Ⅲ期間に「生活プロジェクト」の進行状況を広げる活動を仕組む。 ・担任が、第Ⅲ期間、生活・総合の時間に、自分で課題を見つける場面を仕組む。	A	・クラスの課題を見つけることで、課題に気が付く子どもが育ってきている。 ・生活科や総合的な学習の時間で、応援できるようにしたい。
		家庭	○家族の一員としての責任をもたせる	家庭と連携し、子どもと一人一手伝いを決める。	C	・アンケート結果、64%となっているのは、やはり保護者への語りこみが少ないからではないか。家族の一員としての責任をもたせることの価値を地区懇談会などで積極的に話していきたい。
		地域	○地域の良さや文化・環境についてよさを伝える	地域の関係機関と連携し、ゲストティーチャー活動を推進する。	B	・可能な範囲でゲストティーチャー活動を推進した。今後も状況を確認しながら実施できる活動を進めていく。
在校時間の縮減	○在校時間の縮減 ○金曜日・定時退庁日の実施	学校	○在校の超過勤務4.5時間以内の実現	6時半を過ぎたら、学年部で1日1回、声かけをしていく。	B	・タイムカードなどの記録で、超過勤務の教職員の割合は23% (47%R2前半)に減っているが、持ち帰り仕事が増えているのではないか。
		家庭	○教員の超過勤務実態の理解	6時以降の電話はしない。	B	
		地域	○定期的な見回り	校区の定期的な見回りを行う	B	